



四半世紀毎の節目、戦後75年を迎えた8月15日の靖國神社では、若者の姿が目だった。炎天下、参拝者はコロナ対策のため距離を取りつつ並んだ。

「依存」の対義語は「自立・独立」と辞書には明示されています。軽工業品で、誰でも作れると思われていたマスクがコロナ禍においては、「戦略物資」となりました。経済合理性だけで中国に依存してきた国々が、マスクや抗生物質さえ手に入らないという現実に直面の常です。

存するシステムを是認してきた国際社会が、「共産党一党支配による国家資本主義」の暴走を許してしまいました。依存すればするほど相手の干渉を許し、支配（コントロール）されてしまうのは、世の常です。

「依存」の対義語は「自立・独立」と辞書には明示されています。軽工業品で、誰でも作れると思われていたマスクがコロナ禍においては、「戦略物資」となりました。経済合理性だけで中国に依存してきた国々が、マスクや抗生物質さえ手に入らないという現実に直面の常です。

現在、各国が血眼になつて開発を進めているのが、新型コロナウイルスに対するワクチンです。最初にワクチン開発に成功した国は、莫大な富と強力な外交力を手中にすることになります。これはまさに主権国家の総合力そのものを試している国際競争であり、国際協調の現場であると認識しています。日本の食料自給率は

して、国内生産拠点を再構築しようとっています。日本も当然、医療の安全保障を進め、防護服、人工呼吸器などの国内調達を進めています。

コロナ禍で露呈したのは、経済安全保障の重要性です。国家国民を守る安全保障の概念が、従来の陸海空の領域にとどまらず、むしろ国民生活に直結する経済や技術、公衆衛生など身近な分野が「主戦場」となつて、米中をはじめとする国家間の熾烈な情報戦・心理戦が展開されています。

カロリーベースで38%しかなく、これは先進国で最も低い自給率です。にもかかわらず日本の年間食料廃棄量は643万トンに上ります。毎日、10tトラック1700台分の食品ロスを廃棄している計算になり、これは国民一人当たりが一年間に消費するコメの量にほぼ匹敵します。

自給率が低く、自らは生産できない力がないのに、大量の食品ロスを生み出している現状は、倫理的に問題があるだけでなく、国家としての脆弱性をはらむことになります。

食料自給に心配のない米国の自給率は国家安全保障の問題であり、統領が言っています。「食料自給率は国家安全保障の問題であり、それが常に保障されているアメリカはありがたい。食料自給できないう国を想像してみると、それは常に国際的圧力と危機にさらされている国である」ブッシュ大統領の言葉です。

日本が食料を輸入している最大の国は米国であり、次が中国です。両国から年間1兆円以上の食糧、野菜を買っています。海洋安全保

終戦から75年という節目の8月15日。四半世紀(25年)という単位は大きな節目です。終戦から25年、50年、そして75年の今年、かけがえのないご子息を国難に捧げたお母様方の平均年齢は96歳を超えました。少年兵として戦地に赴かれ、戦友会を成す方々も90歳を超えました。時間の経過とともに戦争の記

憶が遠のきかねない中で、私たちは戦没者の追悼をしつかりと継承していくかねばなりません。

昨年は靖國神社御創建150年の節目でした。150年のうちの実に半分、後半の75年は戦後の時代、つまり私たち自身が歩んできた戦後の軌跡が、果たして歴史の評価に堪えられたのかどうか、といいう検証に入りつつある段階です。

追悼の8月、毎年、全国各地で『戦争の悲惨さ』と『平和の尊さ』が訴えられます。もちろん私もこの真摯な営みに心から賛同します。

世界を震撼させている中国武漢発の新型コロナウイルス禍は、日本や世界が中国とどう向き合つてゐるのか、という命題を私たちに突き付けています。中国はこの30

年で軍事費を実に48倍に増強しています。公表されているだけでも年間の軍事費は20兆円、日本の防衛費の4倍にもなります。核兵器、空母、弾道ミサイルなどを近代化させ、南シナ海では自らが造った人工島を軍事要塞化し、自らの領域だと主張しています。日本が尖閣諸島においては、これあるような振舞いを続けています。これを日本にとつての脅威と言わずして何というのでしょうか？

さらに中国は、インドとの国境線をめぐる緊張を高め互いに死者を出し、国家安全維持法を施行しました。香港では、民主化を求める人々を次々と逮捕しています。今や中国は、地球規模の世論戦を展開し、戦後の国際秩序を塗り替えようとする覇権国家への意図を隠そともしなくなりました。

中国がなぜかくも強気でいらっしゃるのか？ それは各国が中国に依存しすぎているからです。「中国で生産すれば安いから」、「中国では大量に売れるから」という経済合理性によって、中国に過度に依頼が実現し、シーレーン（海の航路）が安定して開かれている、といいう条件が成立した時のみ、日本の豊かな食生活が成り立つてゐる現実を忘れてはなりません。

本日は、この靖國神社と同様に、全国の護国神社でも戦没者追悼の祈りが捧げられています。大阪護国神社と静岡県護国神社では、祈願の後のお下がりで水砂糖を頂きます。なぜ水砂糖なのか？ 戦地において兵士たちは、ひとかけらの水砂糖で飢えを凌ぎ、命をつなぎました。灼熱の戦地で水を欲し、最期に水を一口飲ませてほしいと言つた極限の現実があつたことを、民族の記憶として忘れまじ、といふ戒めの水砂糖もあります。

この戒めも胸に、私達は、水と食料と命と、その基盤となる國家の独立主権をしつかりと守つていかねばなりません。英靈が命に代えてでも守ろうとされた日本の平和と安全を守るために敏感に嗅覚を働かせ、子々孫々に平和で豊かな国を残せるよう、それぞれの分を果たし、努力することを同志の皆様と確認したいと存じます。

「氷砂糖」の戒めを携え、国家の脆弱性を乗り越えよう

参議院議員 比例代表(全国区)選出
有村 治子

